



GAUDETE

推進本部だよ

カトリック広島司教区平和の使徒推進本部

2017-2019年度広島教区年間テーマ

チャレンジ 新しい福音宣教 わたしをお使いください

— 教会へのチャレンジ — 2017年度「祈る使命(祭司職・典礼)」



これからお世話になります。

先日、ある幼稚園の卒園式に出席しました。その時に別れのことばとして卒園児が歌った歌が次の歌でした。

「あおぞらとそよかぜ」

作詞・作曲 浅間玲子

ぼくのうまれたひ どんなそらだったの  
わたしのうまれたひ どんなかぜがふいてたの  
ぼくのうまれたひ ぼくはないたとおもうけど  
ほんとはこころのなかで やったってわらってたんだよ  
わたしのうまれたひ わたしはないたとおもうけど  
ほんとはこころのなかで ありがとうってうたってんだよ

うんでくれてありがとう そばにいてくれてありがとう  
ごはんをつくってくれて いつもありがとう  
はたらいてくれてありがとう まもってくれてありがとう  
いのちがあるだけ だいじにだいじにいきるよ

いつかなりたいな あおぞらみたいなのぼくに  
いつかなりたいな そよかぜみたいなのわたしに

うんでくれてありがとう そばにいてくれてありがとう  
ごはんをつくってくれて いつもありがとう  
はたらいてくれてありがとう まもってくれてありがとう  
いのちがあるだけ だいじにだいじにいきるよ  
だいじにいきるよ

子供たちが元気に歌っていたのですが、最後の言葉が気になりました。「命があるだけ、大事に生きるよ」。五島巡礼のとき、教会にかかっていた垂れ幕「命を懸けて命を生きる」を思い出しました。命を懸けて命を生きた人々に倣って生きたいものだ

と思います。

(本部長 野中 泉 神父)

### 神の家族としての教会

教会はどこから生まれたのでしょうか。教会は、十字架の最高の愛のわざから生まれました。イエスの開かれた脇腹から生まれました。この脇腹から、聖体と洗礼の象徴である、血と水が流れ出たのです。教会という神の家族を生かす血液は、神の愛です。神の愛は、区別なく無制限に、神と他のすべての人を愛することによって具体化されます。教会は、その中で人が愛し、愛される家族なのです。

教会はいつ姿を現したのでしょうか。わたしたちは最近、二つの主日にこれを記念しました。教会は、聖霊のたまものが使徒たちの心を満たし、彼らが出かけて行って、福音を告げ知らせ、神の愛を広めるため旅を始めるよう促したときに、姿を現しました。

現代においても、次のようにいう人がいます。「キリストには然り、教会には否」。それは、「わたしは神を信じるが、司祭は信じない」という人と同じです。しかし、わたしたちにキリストを伝え、わたしたちを神へと導くのは、教会です。教会は、神の子から成る偉大な家族です。いうまでもなく、教会にも人間的な側面があります。教会を構成する司牧者と信者には、欠陥や不完全さや罪が存在します。教皇にもあります。それもたくさんあります。しかし、素晴らしいことがあります。わたしたちは、自分が罪人であることを受

け入れるとき、神のあわれみを見いだします。神はつねにゆるしてくださるからです。次のことを忘れてはなりません。神はつねにゆるしてくださいませ。そして、ご自分のゆるしとあわれみの愛によって、わたしたちを受け入れてくださいます。罪は神への冒瀆だという人がいます。しかし、罪は、へりくだって、もっとすばらしいものがあることを認める機会にもなります。それは、神のあわれみです。このことを考えてみなければなりません。

今日、次のように自らに問いたいと思います。わたしはどれだけ教会を愛しているのでしょうか。教会のために祈っているのでしょうか。教会という家族の一員であることを自覚しているのでしょうか。教会が、すべての人が受け入れられ、理解されると感じ、神のあわれみと愛が生活を刷新してくれると感じられるような共同体になるために、何かしているのでしょうか。信仰は、わたしたちに個人としてかかわるたまものであり、行為です。しかし、神はわたしたちが、家族として、教会として、自分たちの信仰をともに生きるよう招きます。

教皇フランシスコの10回目の一般謁見演説「神の家族としての教会」(一部抜粋)

(カトリック中央協議会 訳)

### 教会暦

04月12日 聖香油  
04月13日 聖木曜日・主の晩さんの夕べ  
04月14日 聖金曜日・主の受難  
04月16日 復活の主日(祭日)  
04月25日 聖マルコ福音記者(祝日)



(ホームページ)